



同帰亭要語録

わざはひは口より出でて、
身をやぶる。さいはひは心よ
り出でて身をかざる

(十字御書)

言語を慎め

舌。綺語。悪口。の四つで
いうのがあります。このう
ちの四つは、口に属するもの
であります。即ち、妄語。両
仏の教えの中に“十惡”と
いふものがありますが、このう
ちの四つは、口に属するもの
であります。即ち、妄語。両

羅は幼時偽りを云つて人を惑
わすのを楽しみとする惡習があつたので仏は、何とか之を矯正したいと思われてあると
き外から帰つて鹽に水を汲んでくるよう命じた。羅睺羅が水を汲んでくると、水で手足を洗つてそれを地上にあけよと命ぜられた。羅睺羅がその水をあけてしまうと、

元の盥の中へ入れよ」と仏は云う。“一旦あけてしまつた水は元へは戻りません”と答えると仏は“一旦口から出した事のとりかえしのつかぬのはなけれども、信者行者の悪

も其の通りである”と、
さとされ、更に仏は
慚愧無き人は妄語して心を
覆へし、道法入らず”と戒められたので、羅睺羅は深くこの戒めを心に銘じ、

以後妄語の罪を犯さぬようになつたという事です。又、両舌、悪口等も戒めねばなりません。

世の人のさがなしことを又人に
つたへて我に罪をつくるな
と御教歌下されてあります。
信者の上に法をそしる人

心より出でて身をかざる”と
示されるのであります。凡夫の心というものはそのままにしておけば“三毒強盛”と申

清流ニュース

発行所
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
<http://seiryuji.jp.org/>

本年度教化誓願達成・学徒一名増加
日堯上人五ヶ年報恩御奉公・寺内境内修復御有志奉納成就
人と未来を繋げる御奉公推進之御願
積極的御法門聴聞・励まし声かけ助行・御利益感得口唱実践

九月の御総講日
一日十時 御修行日
七日十時 バースデー総講
廿五日十時 併長寿特別総講

十三日十時 開導御命日
十七日十時 門祖御命日
廿四日十時 門祖御命夜
廿六日十時 門祖御命夜
三十日十時 欽尊御遠夜
於羽村別院

秋季彼岸会総回向
廿三日十時 本寺
廿四日十時 羽村別院
会議
一日 御総講後 役中会議
廿三日 午後一時 参事会
廿五日 御総講後 ブロック長
会議

先住日堯上人がご遷化され
てから、早くも三回忌を
お迎え致します。

十月二十日(木)午前十
時三十分の開式です。

奉修御導師には、大本
寺・乗泉寺御高職・永江日
盡上人をお迎えさせていた
だき、日堯上人とご縁の深
いご住職方をご招待させて

いただくことになつております。

当山第二世住職日堯上人
には、平成十年二月より、
令和二年十月までの二十数
年に亘るご教導をいただい
たことになりますので、心
をこめてご恩返しのご奉公
に取り組ませていただきま
しょう。

迫る!
日堯上人御三回忌
十月二十日 十時三十分開式
高祖大士龍ノ口ご法難特別口唱会
奉修御導師
大本寺・乗泉寺御高職
永江日盡上人

九月十二日は、高祖日蓮大士
の龍ノ口ご法難記念日です。
御祖師様の『種種御振舞御
書』に、「龍ノ口の頸の座に
つかれたのは九月十二日の午
前二時ごろ、太刀取り・本間
直重は銘刀蛇胴丸に水を打ち
「お聖人これまで」と聲を聞
く。その時『江の島のかたよ
り月のごとく、光たるもの、
鞠のようにて辰巳のかたより
云々』とあります。「刀杖不
加」「刀尋段々壊」の経文通
りの現証を頗る。死罪をまぬ
がれたお祖師様は依知(現在

で沙汰待ちとなり逗留する。
十月十日佐渡に出立。まつす
ぐ北へ、八王子街道を町田一
府中一久米川一所沢一高崎一
渋川を経て新潟寺泊に着かれ
たとある。途中、久米川の立
川家に一泊されたことが遺さ
れている。清流寺の弘通の拠
点をお祖師様が751年前に
お通りになられたのです。遠
くはお祖師様、近きは日序上
人日堯上人のご苦労を忍び、
ご恩に報わんがため清流寺教
講異体同心でご弘通ご奉公に
励みましょう。

(浅沼序説記)

秋季彼岸会総回向

廿三日

清流寺

廿四日

羽村別院

四日

八王子西教区

五日

(月)

八王子東教区

六日

(火)

八王子南北教区

九月朝参詣強調週間
九月三日～六日

第一、第二、第三ブロック担当

二日に祈願助行があります
ので三日からの実施です。
三日から六日迄の四日間実施
されます。

の厚木市)の本間重連の屋敷
で沙汰待ちとなり逗留する。
十月十日佐渡に出立。まつす
ぐ北へ、八王子街道を町田一
府中一久米川一所沢一高崎一
渋川を経て新潟寺泊に着かれ
たとある。途中、久米川の立
川家に一泊されたことが遺さ
れている。清流寺の弘通の拠
点をお祖師様が751年前に
お通りになられたのです。遠
くはお祖師様、近きは日序上
人日堯上人のご苦労を忍び、
ご恩に報わんがため清流寺教
講異体同心でご弘通ご奉公に
励みましょう。

このお彼岸の行事は、日本
独特の催しで、春、秋の二回
行なわれます。
お墓参りも盛んに行われて
いますが、彼岸の期間中は仏
道修行に励む一週間と心得て
ご信心に励みましょう。

月になりました。